

国家総合職（人事院面接）

国家総合職（内定先：国土交通省）

（1）面接の概要・内容

面接日：2025年4月24日

面接官（何名いたか等）：3人。男性が二名（Ⓐ、Ⓑ）、女性が一名（Ⓒ）であった。

面接時間：14:20～14:30（10分間）

面接を行った場所：一般的な会議室、面接官との距離は1m程度

真ん中にいる方（Ⓑ）が基本的に仕切っていた印象。Ⓑ→Ⓒ→Ⓐの順番で進んでいった。

私：失礼いたします。

Ⓑ：それでは受験番号と第一次試験地とお名前をお願いします。

私：はい。受験番号〇〇、〇〇、〇〇です。よろしくお願ひいたします。

Ⓑ：緊張していますか。

私：いえ、このような場は得意であるため、特段緊張はしていません。

Ⓑ：そうですか（笑）。それでは期待しています。

私：はい。よろしくお願ひいたします。

Ⓑ：では、まず〇〇さんの周りで他に国家公務員を目指している方はいますか。

私：はい。幼馴染に一人とゼミの同期にもう一人います。

Ⓑ：幼馴染の方とはいつ頃からのお付き合いなのですか。

私：小学校一年生の頃からの付き合いです。

Ⓑ：非常に長いですね。ところで、〇〇さんは、どのような人と友人になりたいですか？

私：はい。常に高みを目指している人々と友人でありたいと考えています。実際に、一緒に国家総合職を目指している幼馴染とは、私と強みとしている部分が違ったのでこれまでお互いに高め合ってまいりました。

Ⓑ：なるほどね、逆に苦手な人はいるかな。

私：そうですね、すぐにマウントを取ってくる人が苦手です。

Ⓑ：具体的には、どんな人かな？

私：（高校の答案返却での実際のエピソード）

Ⓑ：ありがとうございました。私からは以上です。

Ⓒ：それでは、私から社会的活動で挙げられている、アルバイトのお話について詳しくお伺いさせていただきます。まず、こちらのアルバイトは実際にどういったものなのか詳しくお聞かせください。

私：はい、（アルバイトの詳しい内容、所謂バイトリーダーに関する話。）

Ⓒ：実際に業務に当たって意見が対立することはありましたか。

私：はい、やはり多くの方を巻き込んで業務を遂行していたため、一筋縄ではいかないことも多かったです。

Ⓒ：そのような場面で〇〇さんはどのように対応されたのですか。

私：まず一つ目に、「対話を深めること」です。相手の意見に、しっかりと耳を傾けることで、自分の考え方との共通点や相違点を整理し、必要以上に自分の意見にこだわることなく、チーム全体にとってより良い案を模索することを心がけています。二つ目は、「目標の明確化」です。対立が発生する背景には、そもそも目標指すゴールが曖昧なことが一因になっている場合も多いため、具体的な目標や判断基準を言語化・共有することで、議論の方向性を一致させるよう努めています。

Ⓒ：ありがとうございます。私からは以上です。

Ⓐ：最後になぜ国家公務員総合職、そして挙げていただいた二つの省庁を志望されているのか教えていただいくてもいいですか。

私：はい、私は、日本が有するかけがえのない価値を守り抜き、次世代に継承したいという強い思いがあり、この思いを実現するためには、以下の二つの理由から、国家公務員総合職という立場が最もふさわしいと考えています。

一つ目は、「社会課題の根本にアプローチできる」という点です。人口減少や地方の衰退、国際情勢の複雑化など、日本の「かけがえのない価値」を脅かす社会課題は、単に表面的な対処ではなく、必要に応じて社会のルールや制度そのものの見直すような、本質的なアプローチが求められると言えます。その点で、制度作りに携われる国家公務員の立場に魅力を感じています。

二つ目は、「国家全体の最適解を追求できる」という点です。国家公務員は、働く上で、「日本全体にとって最適かどうか」という観点が問われると言えます。私は、「全ての国民がかけがえのない当たり前の日常」を享受できる社会を実現したいと考えており、そのためには、国家全体を俯瞰しながら、政策や制度を企画・立案する立場で働き、社会課題に対してアプローチしたい。

以上二つの理由から、国家公務員を志望します。

Ⓐ：日本が有するかけがえのない価値とは、具体的にどのような事柄を示すのでしょうか。

私：はい、二点ほどあります。一点目に誰もが暮らしやすい安全な日常、二点目に日本は各地に多様性に富んだ文化や自然を有していることを示しています。

Ⓐ：ありがとうございました。それでは面接を終わります。

(2)面接を終えての印象

当初は苦手な人への対処法や志望動機への答え方が、拙い内容であったため不安であったが、蓋を開けてみるとB評価であり、私自身、声を大きく・笑顔で話すといった基本的なことは完璧にこなそうと意識付けていたため、その点が評価されたのではないかと考えています。

また、面接官の方々も我々の良いところを探そうと様々な角度から質問してくれていることが感じ取れる程度に空気感としては非常に話しやすかった点が非常に印象的でした。

(3)模擬面接と比べて実際はどうだったか

模擬面接は受講していないため、わかりません。

(4)他受験生の印象

集団面接ではないため、実際の本番中の様子は全く分かりませんが、控室では私語厳禁だったことも相まって全体的に緊張感が漂っていました。多くの学生が、面接カードを繰り返し読み込んでいたことが印象的でした。

また、人事院面接のタイミングで英語加点の申請を行うのですが、体感7～8割の人が申請していたため、周りと差を広げないためにも、あらかじめ加点を取れるよう勉強を行う等、準備しておく必要性を強く感じました。

(5)受験生へのアドバイス

面接全体の所感として、なぜその行動を取ったのか、その活動から何を得たのか、その得たものを国家総合職として働くにあたってどう生かせるかといった基本的な質問が中心だと感じました。そこで、突拍子もない変な質問が来るのではないかと身構えてしまい、偏った対策をするのではなく、当たり前のオーソドックスな質問に対して的確に返答する練習を心がけた方が良いと考えます。

また、発言内容だけではなく、第一印象といった印象面も大きく関係していると感じますので、入室時の挨拶から全力を出し切ってください！

国家総合職（内定先：国土交通省）

（1）面接の概要・内容

面接日：2023年5月17日

面接官（何名いたか等）：3名

面接時間：13:20が集合時間ではあったが、回収物の回収や実施形態により、15:00～15:20付近

面接を行った場所：楕円状に机や椅子を並べたときに15～20人程度座って会議ができる程度の広さ。面接官との距離は各4m程度

私：失礼いたします。

Ⓐ（30代前半若めの男性）：受験番号と名前をお願いいたします。

私：受験番号〇〇、〇〇〇〇です。本日はよろしくお願ひします。

Ⓐ：ご着席ください。（ちょっと間があって）緊張されていますか？

私：久しぶりの面接ですし、それほど面接に慣れている訳でもないので、少し緊張しています。

Ⓐ：（少々微笑みながら）緊張せずに自分の思ったことをそのまま答えてくださいね。

私：はい。

Ⓐ：では、私からは学業や学生生活（面接カード①、②）についてお聞きしますね。こちらの面接カードに、ゼミ長になったということですが、これはどのような感じで決まったのですか？

私：皆の推薦があったのと、そういう声があると知って自分からも立候補し、決定しました。

Ⓐ：皆の推薦があったということですが、自分のどういうところが認められて、ゼミ長へと推薦されたと思いますか？

私：ゼミでの授業やイベントの連絡が十分でない時とかに、前幹事長や先生に連絡を取って、それを学年全体に周知する役目等を担っていたので、そういうところが同期たちにマメだと捉えられて、推薦されたのではないかなどと思います。

Ⓐ：先生はゼミ長に関して何か関与はしていたのですか？

私：先生は特にゼミ長に関しては関わっていませんでした。自分がゼミ長になりましたという風に事後報告しただけで決定しました。

Ⓐ：わかりました。イベントの企画はどういうイベントを企画していたんですか？

私：特に皆が仲良くなるようなイベントを企画していました。毎年やっている合宿や模擬裁判、それに加えて仲良くなりやすいように飲み会等のセッティングを行っていました。

Ⓐ：そのセッティングや授業の発表者決めて大変だったことはありますか？

私：特にそれぞれの予定を調整するのが特に大変でしたね。イベントの場合だと、人数がそれなりにありますので、なるべく多くの人が出やすい時間帯や場所を考えること、授業の発表者決める場合だと、3人が発表をするのですが、それぞれ学習の進行度や発表の丁寧さが異なっているので、授業の質が均一となるように気をつけることが大変でした。また、イベントに関しては、コロナってこともあります、店選びの時は対策がしっかりしているものを選ぶこと等もしていました。

Ⓐ：模擬裁判というのはどういうイベントなんですか？

私：毎年、3年生が1からシナリオを作り上げて、2～3時間程度の知的財産権法の模擬裁判を作り上げます。自分の代では、VRと意匠法の関係の模擬裁判を作り上げて発表しました。

Ⓐ：わかりました。次は塾講師について聞かせていただければと思います。塾講師に関してはなにか苦労したことありますか？

私：特に大変だったのは、先生と生徒や親の理想の擦り合わせですね。どうしても現実的に達成できる目標と生徒や親の理想が違うことも多かったので、それを納得いくように説得することが大変でした。説得の時に自分たちが絶対に譲れないところを決め、一方で生徒や生徒の親と話し合って相手がどこまでが譲れないのかを聞いて、その均衡をしっかり守って最善を尽くしました。

Ⓐ：なるほど。次は、サークルについてお聞かせください。この新入生のサポートするサークルに入ったきっかけはなんですか？

私：大学入学当時に同郷の人々と交流するオンライン交流会を開いていただいたのがきっかけになりましたね。

Ⓐ：サークルに入ってどんな風にサポートをしたのですか？

私：基本的には懇談会が企画としてあり、そこで知り合った人々がバイトに困っていると言っていたので、自分の経験したおすすめのバイトを紹介することでサポートしました。バイトができるようになったという連絡をもらえた時は少し役にたてたのかなって感じました。

Ⓐ：そうですか、私からは以上です。

Ⓑ (30~40代の女性)：私からは日常生活その他（面接カード③）についてお聞きしますね。先端科学技術に興味があるということですが、先端科学技術の中で一番興味がある分野はどこですか。

私：自動運転が一番興味あります。志望官庁にも関係あるのですが、地方の交通関係を改良できると考え興味を持っています。

Ⓑ：地方の交通関係ですか？

私：自分が地方出身で、車がないと生活ができないんですね。それで、私の祖父がもう90くらいなのですから、まだ免許を返納しておらず、自分で運転しているんです。そういった人は世の中に多いだろうなと思って、この技術が発達すれば、そういう現状が変わると想い、興味を持っております。

Ⓑ：わかりました。ここに書いてある先端科学技術の講義ではどういうのを学んだのですか。

私：そうですね。法学部でしたので、基本的に先端科学技術と法律の関係性について学びました。先ほどあげた自動運転についてですと、自動運転は乗っている人=運転している人ではないということで、現状の法制度では責任を運転手に取らせることが難しいとなっています。そこでどういう考え方をしたら、誰に自己の責任を取らせることができるのかを学びました。

Ⓑ：わかりました。ニュースに関してはどんなニュースに興味ありましたか。

私：やはり生成系AIのニュースは興味深いですね。連日の発展のニュースを聞いて、生成系AIが社会の役目に取って代わっていくのではないかと感じています。新しい技術なので制度的な問題がまだまだありますか、労働の形、生活の形が変わる画期的な技術ですので、今後の動向が気になって、色々見ています。

Ⓑ：ありがとうございます。私からは以上です。

Ⓒ (50代程度の男性)：最後に私からは志望動機や志望官庁についてお聞きします。国家公務員の志望理由は何ですか。

私：上京してから地方と都市の違い、問題を明確に認識するようになりました。その一方で地方のいいところ、例えば、兄に子供がすでに3人いるんですが、近くに親がいるので、兄も兄の嫁も働いている状況で育てることができている。そういったことも考えるようになりました。公務員となって地域を活性化しつつ、日本の問題の根源にある少子高齢化に臨みたいと思い志望しました。

Ⓒ：わかりました。志望官庁に関して国土交通省と文部科学省の二つを挙げていますが、他に考えている官庁はありますか。

私：今の所はその二つのみで考えています。

Ⓒ：民間や他の公務員は受けたりしていますか。

私：民間は受けていませんが、他の区分の公務員は受けています。総合職だけでなく、東京都庁や国会の事務員が受験中であり、一般職や裁判所事務官は受験予定です。

Ⓒ：どこが第一志望ですか。

私：総合職です。

Ⓒ：わかりました。それでは、これにて面接を終了いたします。

私：ありがとうございます。

(2)面接を終えての印象

国家公務員の総合職を受ける前に何度か公務員の別区分で面接を受けさせてもらっていたのですが、その中で一番何事もなく終わったなという印象を受けました。これより前の面接では、結構面接官のいい表情を見られたのに試験を通らなかった面接もあれば、声がよく出てなかつたり、うまく質問に応対できていなかつたりしていた面接が通っていた場合もあったので、面接が終わったばかりの頃は良かったのかどうか掴めない状況だったので、自信は持てなかったのですがこれで落ちてしまったら仕方ないなと思ってもらいました。